

戦後70年事業に取り組んでいます

戦後70年を迎えた今年、町ではさまざまな事業に取り組んでいます。

8月22日(土)には「戦争体験を語り伝えるつどい」を開催しました。つどいでは実際に軍隊経験をした若林憲秀さん、森田景二さんの2人と、戦中に学生時代を過ごされた山村美智子さんに戦争体験談をお話いただきました。

若林さんは当時つけていた日記を読みながら、B29が日野町の上空を飛んでいたことや終戦を知ったときの心境等が話されました。つどいの最後には、参加された方から体験者の話を聞いての感想、自身の戦争体験や戦争に対する思い等の発表がありました。



8月22日(土)、23日(日)、勤労福祉会館ホールでは、「戦争の記憶展」が開かれ、町内の皆さんから提供いただいた戦中戦後の資料を展示しました。

出征旗や日記、軍服等さまざまなものが展示され、訪れた方は一つひとつじっくりと見ておられました。「こんなあったなあ」と当時を振り返りながら見ておられる方や子どもや孫に説明しながら見ておられる方等、さまざまでした。

8月24日(月)、わたむきホール虹で「日野町戦没者追悼式」が挙行されました。追悼式の中で、町内の小中学生4名が今年の3月に参加した次世代戦跡訪問研修の報告を発表されました。

同日の夜には日本遺族会名誉顧問の古賀誠氏を迎え、「戦後70年、平和を考える」と題して講演会が開かれ、多くの方が参加されました。

8月中、近江日野商人館では戦後70年記念企画展「近江鉄道改札口から見る日野町と太平洋戦争」が開かれ、当時の資料を展示しました。

展示室には千人針等の展示のほか、日野町での戦争に関する年表が貼られ、写真とともに当時の様子が説明されています。

中央には旧東桜谷村に大阪から集団疎開していた児童から届いた感謝の手紙も展示されていました。手紙には「皆さんに優しくしてもらった」「私たちのうれしさは忘れない」等感謝の言葉が書かれているほかに「郵便屋さんが

来ると、家からの手紙かと走っていった」と、家族と離れて過ごす寂しさも書かれています。



これから行われる
戦後70年関連事業

◆平和を考える講演会



とき：10月17日(土)午後2時
ところ：図書館 視聴覚室
演題：絵本『せかいいちうつくしいぼくの村』を語る
講師：小林豊氏
(日本画家、絵本作家)

◆朗読「終戦の日その日は私」& 長崎市長田上富久氏記念講演会



とき：10月18日(日)午後2時
ところ：わたむきホール虹
第1部朗読：終戦の日その日は私
第2部講演：peace from 日野町
第2部講師：田上富久氏(長崎市長)

◆問い合わせ先

日野町戦後70年事業実行委員会
事務局(総務課内) ☎065000